

# マクロ & 生活者目線で考える インド市場への飲食料品輸出

令和3年6月23日

SEALS海外進出セミナー（インド編）

在インド日本国大使館 一等書記官 渡辺 一行

ikko.watanabe(a)mofa.go.jp (a)はアットマークに変換

# 今日お話ししたいこと

---

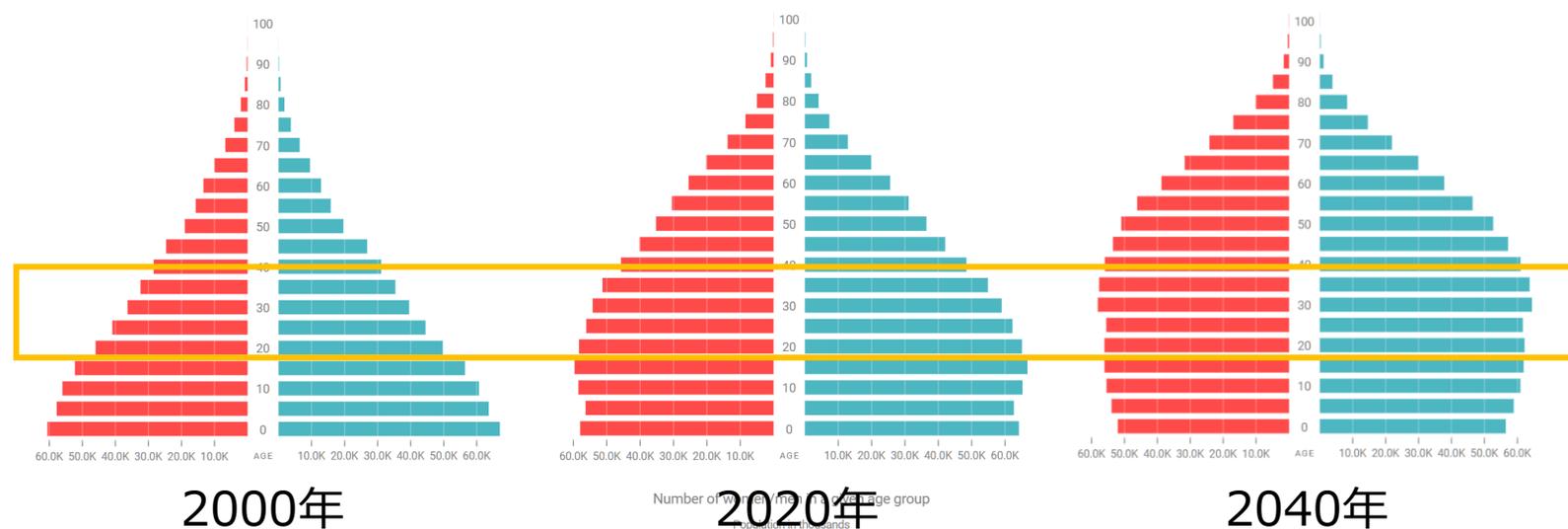
- 「インド」と一口にいても、インドという市場は存在しない
- 自分たちのビジネスにあった市場を見つける
- 価値観を共有する専門家とチームで取り組む

# インド

- 人口（13億人）だけではなく、国土（約330万km<sup>2</sup>）も大きな国。
- 28の州、8の連邦直轄領。英語、ヒンディー語のほか21の公認言語。
- 民族、宗教も一様ではない。



インドの人口ピラミッドの変化：購買力のある若い層が厚い



出所：外務省 国・地域データ（インド） <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/india/data.html>

出所：UNFPA（国連人口基金）データ <https://www.unfpa.org/data/IN>

# インドの主要都市

- インドには、人口500万人以上の都市が複数あるも、分散して存在。
- 都市の1人あたりGDPは、中国、東南アジアの主要都市と比べると低い。

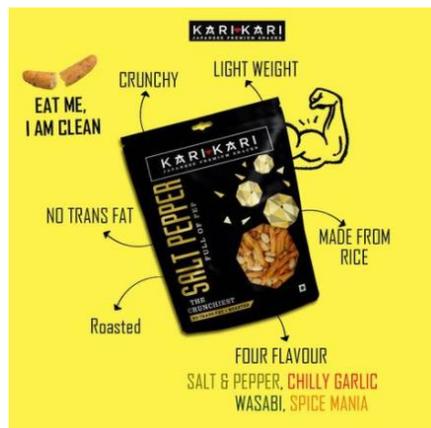
主要都市比較 (2015年)	ムンバイ	アーメダ バード	ベンガ ルール	プネ	デリー	チェンナイ	コルカタ
人口 (万人)	1,932	711	1,014	575	2,587	968	1,442
1人あたり GDP (ドル)	5,328	5,085	4,754	4,488	4,311	3,224	2,364

参考	上海	北京	ジャカルタ	ホーチミン	バンコク
人口 (万人)	2,348	1,872	1,017	735	940
1人あたり GDP (ドル)	19,028	18,883	14,610	4,852	11,593

出所：三井住友戦略研究所 鈴木雄介「インドの都市の所得水準」より [鈴木氏が、国連統計、マッキンゼーグローバル研究所の資料を基に作成]  
[https://www.mitsui.com/mgssi/ja/report/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2020/03/17/2003d\\_suzuki.pdf](https://www.mitsui.com/mgssi/ja/report/detail/_icsFiles/afieldfile/2020/03/17/2003d_suzuki.pdf)

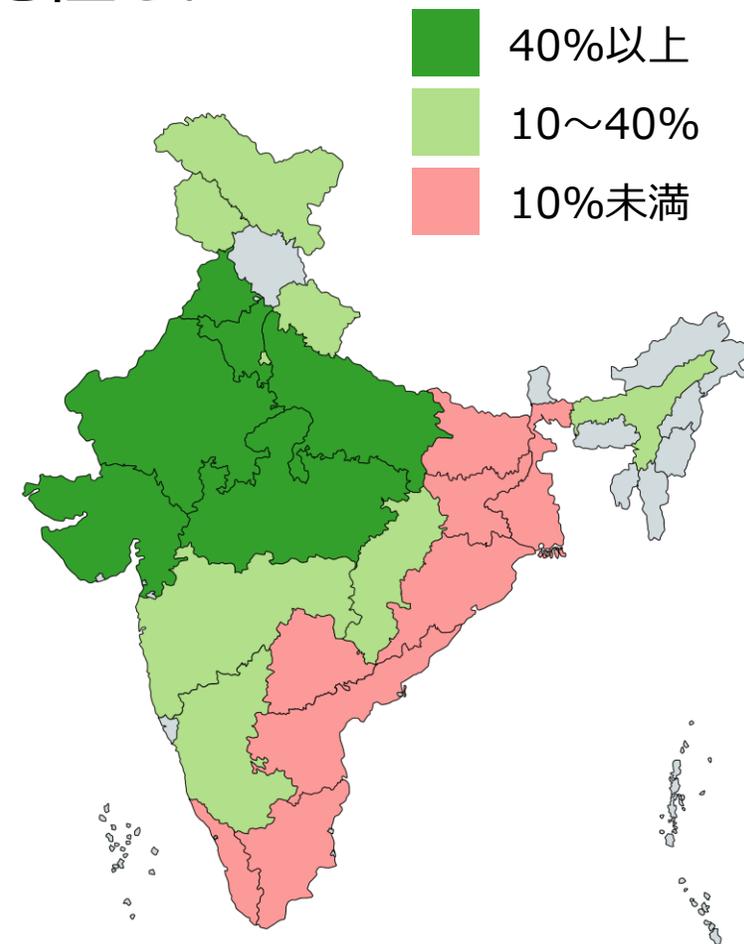
# インドの食の嗜好

- 刺激が強く、はっきりした味が好まれる。  
調味料（わさび、山椒等）等は今後需要が高まる可能性も。
- 味覚は保守的。  
クリスピー（パリパリ、爽やか）な食感を好む。
- ベジタリアンが多い。  
食材がベジかノンベジ（動物性のもの含む）が注意。



インド人の嗜好に合わせた商品例  
（ダワット・カメダ社（亀田製菓））

画像 <https://www.instagram.com/karikari.snack/>



出所：インド内務省戸籍・センサス事務局 2014年ベース標本調査を基に作成

# インドの在留邦人・日系企業

- インドには、約1万人の邦人が滞在。  
また、約5,000拠点（約1,450企業）がある。
- 邦人数は東南アジアの新興国と比べて少ないが、  
拠点数については、アジアにおいて中国に次いで多い。

インドの在留邦人数の推移

	2015	2018	2020
<b>全体</b>	<b>8,655</b>	<b>9,838</b>	<b>9,239</b>
デリー等	5,171	5,810	
コルカタ等	208	180	
チェンナイ等	1,011	1,204	
ベンガルール等	1,229	1,282	
ムンバイ等	1,036	1,362	
中国	133,902	120,076	111,769
インドネシア	17,893	19,162	18,191
ベトナム	13,547	22,125	23,437

インドの進出日系企業数・拠点数（2018）

	拠点数
<b>全体</b>	<b>5,022</b>
デリー等	1,718
コルカタ等	395
チェンナイ等	1,037
ベンガルール等	534
ムンバイ等	1,338
中国	32,887
インドネシア	2,009
ベトナム	1,944

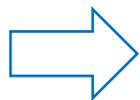
# インドの日本食市場

- インドにおける日本食レストランの数は着実に増加。
- 日本食レストラン以外でも「Sushi」等が見かけるように。
- 日本食材のインポーターも、レストラン向けの卸売が中心か。

## インド（デリー近郊）の日本食レストラン数

2017

**30**



2019

**47**

## レストラン情報サイト（フードデリバリーサイト）



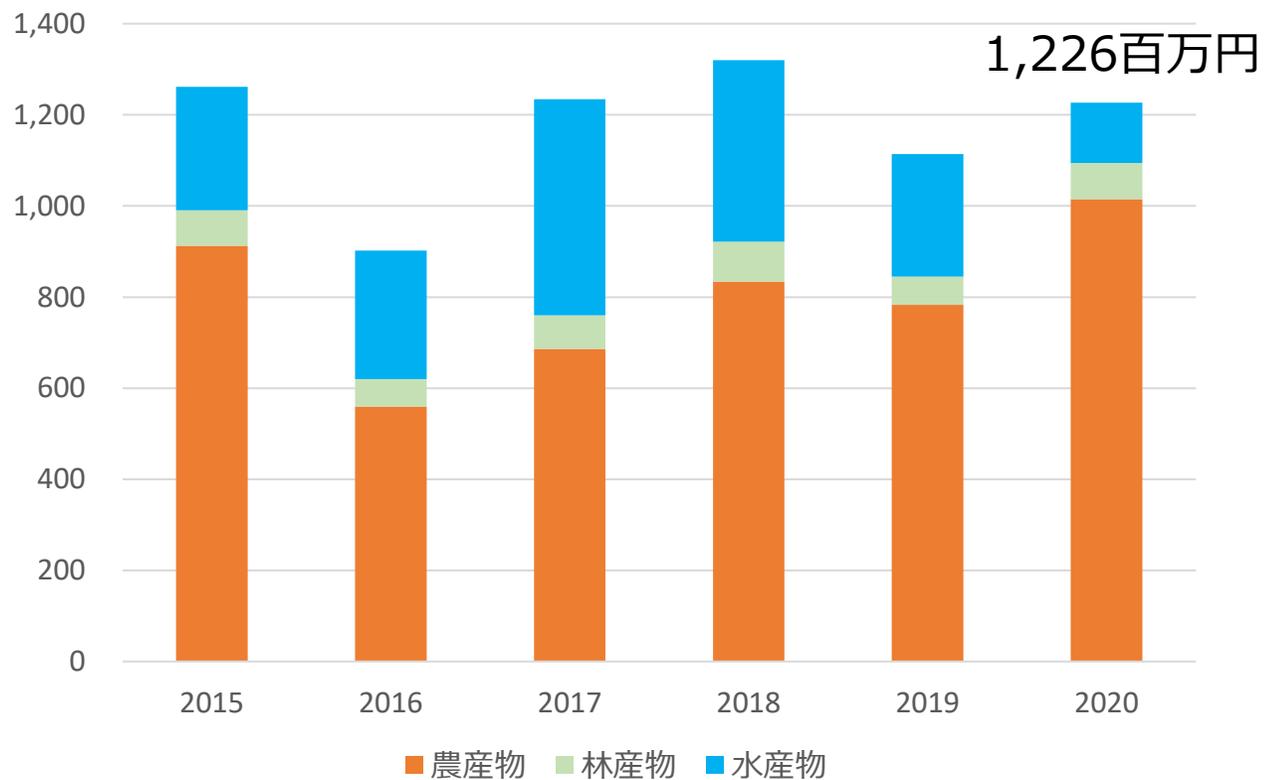
- コロナ以前より、フードデリバリーのプラットフォームであるZomatoやSwiggyが急成長を遂げている

## 日本食材インポーターの声

- 毎月コンテナ数本を定期的に輸入（コロナ以前）
- 主に、ホテルやレストラン向けの卸売が中心
- インド人経営のレストランからの問合せ・注文も増えてきている

# インドへの輸出

- 日本からインドへの農林水産物・食品等の輸出は10億円程度で推移。
- 2020年は、ウイスキー等の輸出が多かった。



## 2020年の主な輸出品（農産物） 1,015百万円

ウイスキー	146
デキストリン	90
播種用の種子等	79
調味料等	60
チョコレート菓子	33
緑茶	23
その他調製食料品	188 注) 2020年に急増

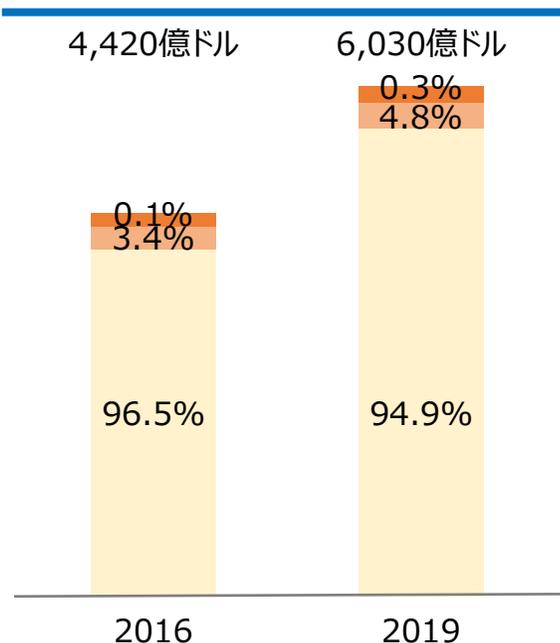
## 2020年の主な輸出品（水産物） 131百万円

真珠	72
魚類等（冷蔵・冷凍）	11

# インドの流通

- インドの流通はほとんどが伝統的トレード。
- モダントレード（ショッピングモール等）やECは数字上のシェアは小さいが、（生活者目線では）主要都市における存在感は大きい。

流通別 日用品支出額



品目別 日用品支出割合

穀物・豆類	37%
果物・野菜	25%
乳製品	22%
肉・魚等	9%
菓子等	3%
飲料	3%
健康食品	1%

主なモダンリテール・ECのブランド



上記のほか、コンビニについても、近年増加。  
日系企業も進出。  
外食でも、「ゴーストキッチン」の登場等変化。

出所：INVEST INDIA “Indian Food Processing Sector: The untapped growth opportunity”

出所：REDSEER “Indian EGrocery: A Promising Opportunity Led By Value-First Users”  
<https://redseer.com/reports/indian-egrocery-a-promising-opportunity-led-by-value-first-users/> を基に作成

参考：JETRO 地域・分析レポート「新型コロナ禍で成長する食料品、医薬品Eコマース（前編）（インド）」 <https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/special/2021/0302/6754ea96b4a99a9e.html>

# モダンリテールの売り場

- 高級スーパーの店頭には日本食材（ただし、日本以外からの輸入品等）が並んでいる。
- 同様に、ECにおいても、調味料、豆腐、日本米等が売られている。

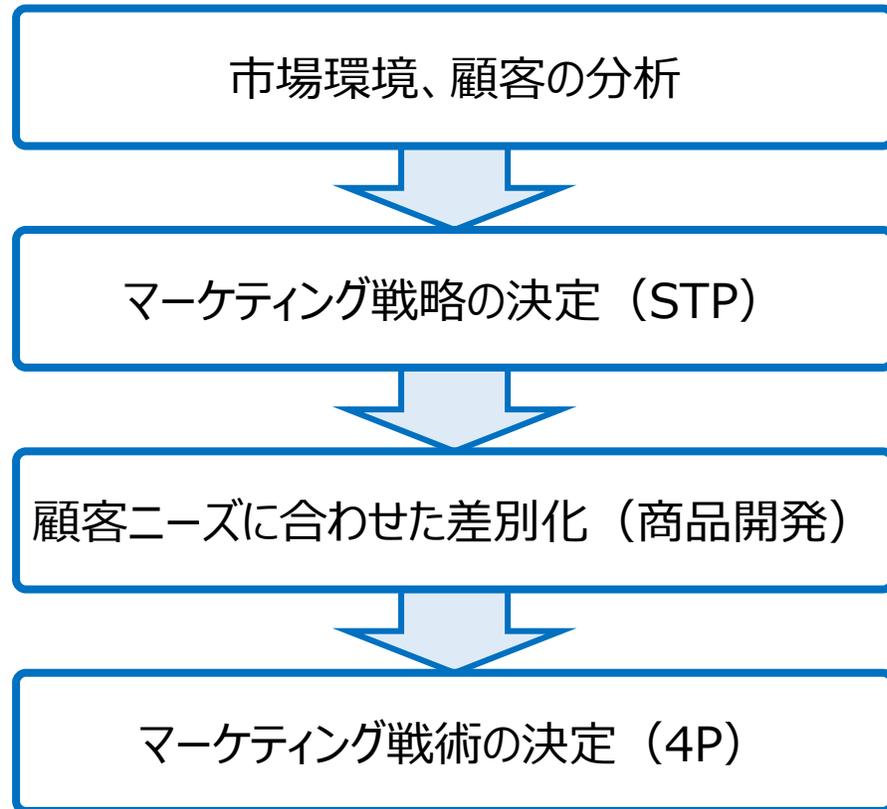


高級スーパー（デリー市内）の店頭の様子

- キノコ類は、東南アジア（タイ等）からの輸入品が多い  
（例. タイ産 エノキ 1パック 200ルピー）
- 日本の香辛料（わさび、からし等）や調味料も並んでいる（米国等からの輸入品が多い印象）
- 日本米（米国産 600ルピー/kg）や和梨（韓国産 600ルピー/kg）等も

# 輸出に取り組むにあたって①

- 実際に輸出に取り組むにあたっては、まず市場を知る（分析する）ことが重要。自社の商品が、どこなら勝てるのかを研究。



## JETRO 農林水産物・食品の輸出支援ポータル

**日本産農林水産物・食品の輸出を支援します!**

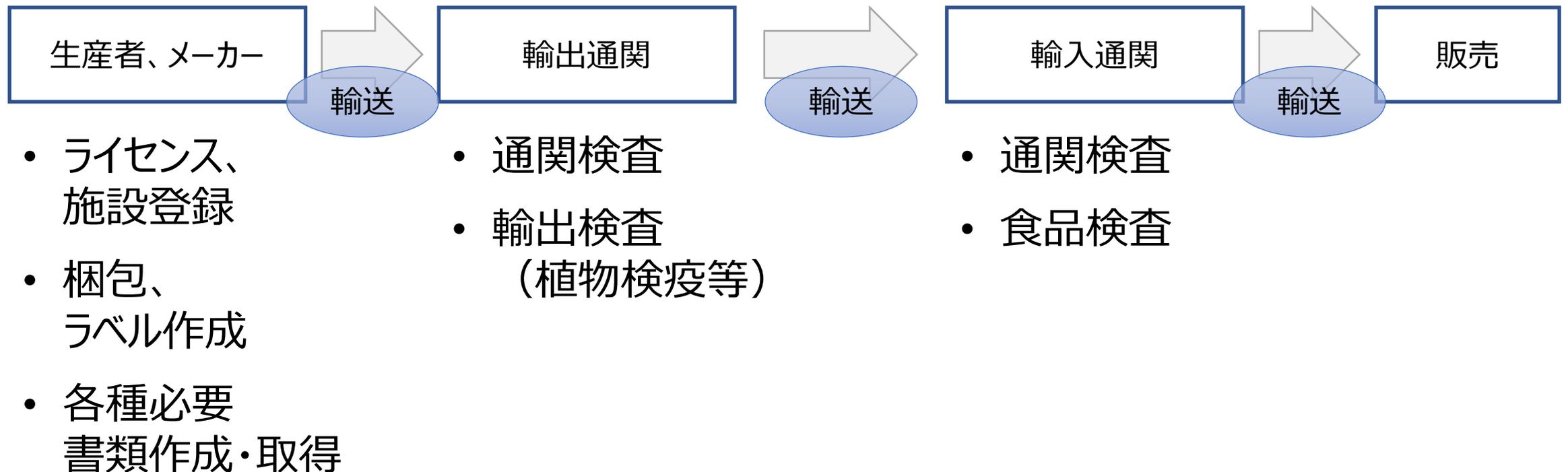
**PICK UP**

- ・どこに何を輸出したいですか? 日本からの輸出に関する制度情報を更新しました
- ・海外現地専門家への輸出可能性相談 海外コーディネーターによる輸出相談サービス

- ジェトロや関係機関による輸出支援策
- 品目・国別に輸入手続きや規制を調べる
- 日本産農林水産物・食品輸出マッチングサイト (JAFEX)
- 写真で見る世界の食トレンド
- 輸出に役立つ各国の情報  
・マーケティング基礎情報  
・現地市場価格調査  
・輸出品目別レポート
- 国・地域別イベントカレンダー
- 海外における日本産食材サポーター店認定制度
- 海外で注目の日本産食材ピックアップ

# 輸出に取り組むにあたって②

- 輸出を行い、実際に店頭で販売するまでには、インポーター・販売先の検討、輸入・販売許可や通関手続き準備、物流手配等、多数の事務作業が存在。



# 輸出に取り組むにあたって③

- 現地の輸入・販売にかかる規制について、よく確認することが必要。
- 食品安全（残留農薬、重金属、添加物）、ラベル表示、包装等について、インドの規制に適合していることが必須。
- 野菜・果物（種苗含む）は植物検疫に注意。

## インド向けの輸出に関わる規制情報



参考：農林水産省

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/shokuhin-kikaku/asia.html>

## インド向けの野菜・果実等の輸出条件

コメ（精米、玄米）、製茶  
サクランボ、モモ  
タマネギ  
サクラ、マツ、ラン、ツツジ  
（種子）  
トマト、キャベツ、キュウリ、  
ニンジン

※ 輸出検査や防除処置等が必要



参考：農林水産省植物検疫所

<https://www.maff.go.jp/pps/j/search/ekuni/as/india/index.html>

# 輸出に取り組むにあたって④

- 輸入に伴う関税が大きなコスト要因。  
EPAで関税削減・撤廃の対象となっている品目は、積極的に活用を。

## 日印EPE（CEPA）における関税撤廃等の対象例

- 製茶
- 菓子（チョコレート、ビスケット等）
- 味噌、醤油、食酢等調味料
- 清涼飲料 など
  
- 野菜・果物や水産物は、  
品目や状態によって異なるため、注意が必要

農林水産省 EPA利活用セミナー

2021年7月15日（木）14時～17時

<https://www.maff.go.jp/j/press/kokusai/chiiki/210617.html>



# 輸出の支援体制

- 「農林水産物・食品」の輸出拡大実行戦略の下、関係省庁、JETRO、JFOODO、品目団体、在外公館等が連携し、支援。

## 農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略

## JETROのポータルサイト

### 戦略の趣旨

・2025年2兆円・2030年5兆円目標の達成には、海外市場で求められるスペック（量・価格・品質・規格）の産品を専門的・継続的に生産・販売する（＝「マーケットイン」）体制整備が不可欠



マーケットインで輸出に取り組む体制を整備するため、  
・速やかに実行するもの  
・令和3年夏までに方向を決定し、実行するものを実行戦略として取りまとめ

### 3つの基本的な考え方と具体的施策

1. 日本の強みを最大限に活かす品目別の具体的な目標を設定

①輸出重点品目(27品目)と輸出目標の設定

②重点品目に係るターゲット国・地域、輸出目標、手段の明確化

③品目団体の組織化と海外における国の支援体制の整備

2. マーケットインの発想で輸出にチャレンジする農林水産事業者を後押し

①リスクを取って輸出に取り組む事業者へのリスクマネーの供給を後押し

②専門的・継続的に輸出に取り組む「輸出産地」を具体化、輸出産地形成を重点的に支援

③大口トット・高品質・効率的な輸出物流の構築のため、港湾等の利活用、輸出物流拠点の整備 等

3. 省庁の垣根を超え政府一体として輸出の障害を克服

①輸出本部の下、政府一体となった規制の緩和・撤廃の取組

②輸出先国の規制やニーズに対応したHACCP施設等の整備目標の設定、目標達成に向けた認定迅速化

③日本の強みを守るための知的財産の流出防止対策の強化 等

4. 国の組織体制の強化

農林水産省に「輸出・国際局」（仮称）を設置し、政府全体の司令塔組織である農林水産物・食品輸出本部の運用等を通じて、同局を中心として、輸出関連施策を政府一体となって実施する。



農林水産物・食品の輸出支援ポータル  
<https://www.jetro.go.jp/agriportal.html>

# 大使館の働き

- 大使館には「日本企業支援担当官（食産業担当）」を設置。
- 農林水産物・食品の輸出に関する現地の規制や制度を知りたい、在外公館施設を活用しプロモーションイベントを開催したい等、農林水産物・食品の輸出や食産業の海外展開に関する相談に対応。

## 現地規制や制度について

- 現地当局への問合せや協議が膠着している
- 現地規制・制度の詳細について確認したい

## 在外公館施設を活用したプロモーションについて

- 大使館主催行事での日本産農林水産物・食品の紹介
- 公邸を利用したセミナーの開催

外務省 日本企業支援 グッドプラクティス

検索

